

発達に応じた読書指導の工夫（資料4）

1 緑野小1年生の入門期の読書指導

1年生は学校における読書指導の入門期に当たり、耳からお話を聞いて「絵を読む」読み聞かせやストーリーテリングによる形象としての言葉の力を育てる時期ととらえ、絵本や幼年童話、ストーリーテリングの世界をたっぷり楽しめる力を育てることが求められています。そのために特に細かなステップで発達段階に応じた指導をおこなう必要があり、次のような段階的指導を行います。

【1学期】（国語は文字学習が中心、5月頃より家庭学習では毎日音読練習に取り組む）

「お話って、本って楽しいな」と感じられるよういつでもどこでもちょっと時間をつくって読み聞かせをおこなう

- ・「図書館の時間」は学校司書と担任が1冊ずつ読み聞かせをする
- ・「静読」タイムは、教科書がすらすら読めない児童は、担任が児童のリクエストの本を読み聞かせをする

・文字が読めるようになったら飛ばし読みを防ぐ「指読み」をさせていく

・6コマカードを使い、簡単な絵本でお話の筋がわかるよう絵や文字で流れをかかせる

- ・貸し出しの本は、司書教諭と担任で絵本を200冊ほど選ぶ

各クラスは40冊ほどの中から選ぶようにする

- ・背表紙から選ぶことはこの時期は難しいので、表紙を見せて並べる面出しをして、そこから選ばせる

- ・原則的に絵本のみを読ませる

学習資料センターの本を解禁にすると、図鑑などをただながめて終わる可能性が強いので「図書館の時間」貸し出さない

- ・教科の学習、休み時間には興味・関心、必要とされる本を読むことは自由とする

夏休みの貸し出しは3冊中1冊は学習関係の知識の本も入れて良いとする

45分間の流れ

学校司書と担任の読み聞かせ	貸し出し返却	静読
20分	15分	10分

【2学期】（国語は読解が本格化し、漢字、片仮名学習が加わる。家庭学習では毎日音読に取り組む）

見る読書から読む読書へ移行させる（指読み）

- ・国語の文学作品から発展し、広げる読書
『おおきなかぶ』からロシアの昔話、『くじらぐも』から中川李枝子作品へ
- ・調べ学習入門
『じどう車くらべ』単元の発展学習として
資料から調べたい事柄に関する文を見つけ、書き出すことができる
図鑑の使い方の指導
『昆虫』『植物』図鑑を使い、目次や索引から調べる方法を学ぶ
- ・読書の質を高める
緑野文庫スタート
- ・緑野文庫クイズを静読の時間におこなう
正確に読み取ったり、行間を読み取ったりする
- ・貸し出しの範囲は絵本と幼年文学（日本）から2冊

【3学期】

ひとり読書への移行期

- ・調べ学習

『どうぶつの赤ちゃん』単元の発展学習として

3分類、4分類の学習資料を読みこなす

- ・読書の質を上高める

緑野文庫の完読をめざす

- ・緑野文庫クイズ

正確に読み取ったり、行間を読み取ったりする

- ・貸し出しの範囲は絵本と幼年文学（日本・外国）から2冊

2 2年生後半から3年生

児童文学への橋をわたる大切な節目の時期ととらえ、絵本から児童文学への橋渡しのための手だてを工夫し、形象としての言葉の力を育てることを重点的に指導する。そのための手だてとして次のような取り組みを行う。

2年生後半からは「長文の読み聞かせ」を行います。幼年文学コーナーを充実させ、個々の児童の読書力に応じ長めの児童文学をすすめる。またこの時期は外国児童文学の入門期でもあり、その点についても意識的に指導するように注意をはらう。

3 4年生から高学年

外国児童文学に読み慣れる力を育てるために読書のアニメーションなどを取り入れたり、ブックトークを積極的に行い「軽めの読書」だけに流されないようにする。論理としての言葉の力を育てるノンフィクションも読めるような指導の工夫を行う。

緑野文庫の設定について（資料5の1）

1 設定理由

児童全体の読書の質を向上させるために、「緑野文庫」を設置し、完読を進めます。

低学年の時期にかなりの冊数の絵本を読む児童でも、放っておくと学年が上がるにつれ「軽めな読書」に流れてしまう傾向は否定できません。読書の質を上げるために機会があれば本を勧めています、全ての児童に十分に働きかけられるとは限りません。

そこで子どもたちが本を読む目安となる「緑野文庫」を平成21年2学期から設置しました。

狛江市では、平成18年に小学生の読書リスト『本の森』を作成し、2年生以上の児童に配付してきました。本校でも『本の森』コーナーを設け、リストの本を全て配架しました。「緑野文庫」はそれらのリストを学年に分け、各学年33～36冊を選定したものです。各学年で完読すると、6年間でほぼ200冊読むことになります。

緑野文庫は、選書に困っている児童や、軽めの読書に走っている児童にとっては有効といえます。手の届くところに本のある学校生活をつくるために、各学級に1セット配架をしています。

資料 児童へのよびかけ

緑野小学校のみなさんへ

緑野小学校が生まれて今年で10年になります。この学校をつくる時、子どもたちが大好きになってくれる図書館にしようと多くの人が知恵を出し合いました。おかげで今では毎日通って来るだけでなく、たくさんのお友達が読書を大好き、分からないことがあれば図書館で調べればいいと考えるようになりました。

そこで今度は、緑野小学校の子どもたちの“根っこ”と“翼”をもっともっと大きくしたいと考え、「緑野文庫」をつくることにしました。

私たちは、たった1冊の本で、まだ行ったこともない遠い国や過去や未来の世界にも行くことができます。ひとには話せない心のもやもやをかかえているとき、1冊の本に出会えて、「あっ、ぼくと同じだ」「わたしが言いたかったのはこのことだ」と思うことがあります。また「この本良かったから、あの子にも教えたい」と思うときもあります。

読書は読む人の心を優しくしてくれたり、はげまして強くしてくれたり、深く考える力を育ててくれます。それがひとりひとりがしっかり立つことができる「根っこ」です。そしてその心でいろいろな友だちとつながり合って、前に進もうとする「翼」を育てます。この「緑野文庫」は図書館の16000冊の本の中から特別に選ばれた本ばかりです。きっと気に入ってくれると思います。1年かけてじっくり読んでください。みなさんの“根っこ”と“翼”を大きくするために。

2 取り組み方

① 読書能力を培うために各学年スモールステップを設定する。

低中高学年の枠組みで60冊程度を幅を持たせて選書し内容によって初級、中級、上級などのスモールステップを付け児童が取り組みやすくする。選書にあたっては各学年で学校司書とともに決めていく。

例) 昨年度は個に応じた取り組みとして6年生はリストのセカンドバージョンである「緑野文庫スペシャル」を設定しました。

② どの児童にも達成感もてるよう完読賞の他にチャレンジ賞など励ましの賞を設け、修了式で該当児童を紹介し賞状を渡す。

緑野文庫クイズのねらいと取り組み方（資料5の2）

1 ねらい

緑野文庫については速読ではなく、読み味わう力を育てるために、低学年では読書クイズを作成し読後にやらせます。読書の在り方の指導を低学年で行うことで高学年につなげられるのではないかと考えます。

☆子どもたちが「読んだ」と言う場合に想定される読み方には次のようなことが考えられます。

- ① ただページをめくっているだけ
- ② 絵を眺めているだけ
- ③ イメージを描きながら読んでいる

緑野文庫クイズは、③の読み方をどの子にも身に付けさせるために考えた取り組みです。

2 取り組み方順序

【1年生の取り組み方】

- ① 本の内容、クイズの難易度などで初級～上級に分けています。初級から取り組ませます。
- ② 読んだ子どもに、その本のクイズ用紙を渡し、1年生は本を戻して、2年生は内容が長いので本を傍らに置きながらクイズを解きます。
- ③ 担任が採点をします。
担任が緑野文庫を読まないと言えは分かりません。
- ④ 間違えた問題は、もう一度読ませて再度やらせます。
本当に読んでいれば、おおよそそのあたりに書かれてあったのかわかるので、その部分を読み返せばよいのです。
- ⑤ 合格したら次の本を読むようにします。

※内容が把握できない児童の場合は「指読み」といって、指で文を追いながら読ませ、さらに絵と比べながら読ませると効果的です。

流し読みをする児童には、「大まかなあらすじを話せるように読んでごらん」とアドバイスするとよいです。

【2年生の取り組み方】

1年生は絵本がほとんどのために、順番を待つのに時間はかかりませんが、2年生は長編がありますので次のように取り組みます。

- ・1～2カ月の期間でクラスごとに数冊の課題の本を決め、それぞれのクラスから貸し借りする。
3冊ずつ複本になるので、より多くの児童の手に渡ることになり、集中的にそれらを読むようにはたらきかける。
- ・1年生と同様に本の内容、クイズの難易度などで初級～上級に分けています。読書力が不十分の児童には初級から取り組ませます。
- ・2年生の本は内容が長いので、本を見ながら答えを書いても構いません。

3 期待される効果

- ・完読した子どもたちは確実に語彙力、文章力が身に付きます。
- ・文章で言われていることが分かるようになり、文章で思考できるようになってきます。
- ・自力で解くので、本当の意味で読解力のある子どもたちが先に進み、進度にかなりの差が生まれますが、個別指導でやり取りをしながら解いていかせると国語の授業での反応に変化が見られます。